

実習指導マニュアル：保育所等

令和5年度子ども・子育て支援推進調査研究事業(こども家庭庁)  
指定保育士養成施設及び実習先保育所の実習指導担当者に対する  
効果的な研修の在り方に関する調査研究

# 保育実習指導マニュアル

---

## 保育所等版

令和5年度版

一般社団法人 全国保育士養成協議会

## 目次

はじめに .....	1
<b>I. 実習前 .....</b>	<b>3</b>
1. 実習生の実習段階・内容を確認する	
2. 養成校で実習生が事前に学んでいることを把握する	
3. 職員間で実習の受入れ・指導について確認する	
4. 実習オリエンテーションを実施する	
<b>II. 実習中 .....</b>	<b>6</b>
1. 実習生が安心して実習できる環境をつくる	
2. 子どもと心通わす体験を大切にする	
3. 記録（実習日誌）を書く意味を伝える	
4. ICTを活用する	
5. 実習生に学んでほしい内容によって記録（実習日誌）の書式を選ぶ	
6. 実習生が学びたい内容によって部分・責任実習の方法を選ぶ	
7. 全体的な計画に基づく計画や実践を理解する	
8. 保護者支援を学ぶ環境をつくる	
9. 保育を振り返る行為を共有する	
10. 養成校と一緒に実習生を育てる	
<b>III. 実習後 .....</b>	<b>12</b>
1. 「何が良くて何が課題なのか」が分かる評価を書く	
2. 養成校の事後指導にも関心を持つ	

\* 文中のたとえば：★「実習指導の工夫」、●「実習施設（養成校）との連携」、◆「補足情報」

\* より確実にこのマニュアルをご活用いただくために、各ポイントにチェック欄を設けています。ぜひご活用ください。

## はじめに

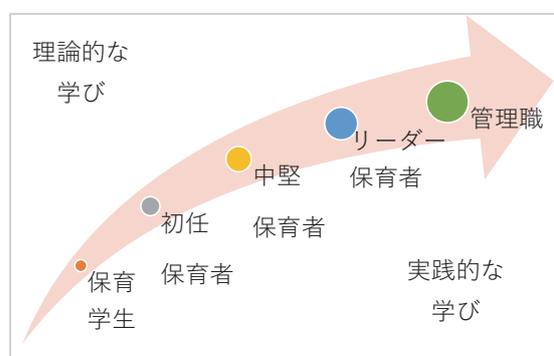
実習指導は、①事前指導、②実習中の指導、③事後指導によって成り立っています。①事前指導、③事後指導は主に養成校の実習指導者、②実習中の指導は主に実習施設の実習指導者が担うこととなりますが、学生にとってこれらの学びは連続性のあるもので切り離せるものではありません。より良い実習指導を進めるために、養成校と実習施設が一連の実習指導の内容を共通理解し、協働して取り組んでいくことが大切です。

### 保育者としての育ちと実習

養成校では授業を通して理論的な学びを、保育現場では実習を通して実践的な学びを中心に行います。保育者になるためには、保育に関する理論と実践の学びを往還しながら進めていく必要があります。そして、保育者になってからも、理論と実践の往還的な学びを続け、その専門性を高めていくことでしょう。

保育者としての育ちは養成段階から始まっています。良い形で保育者としてのキャリアのスタートをきることは、実習生の保育者になりたいという思いを高め、希望をもって保育者としての道りを歩んでいくことにつながるでしょう。

### 保育者としての学びと成長



### 学びの主体である実習生

保育の主体が子どもであるように、実習においては実習生が主体になります。実習生は指導する側から見ると指導される存在ですが、実習においては学びの主体として実習生の存在を捉えていく視点が重要です。そのことは、将来、主体的な保育者を育てることにつながるでしょう。

### 実習生理解から始まる実習指導

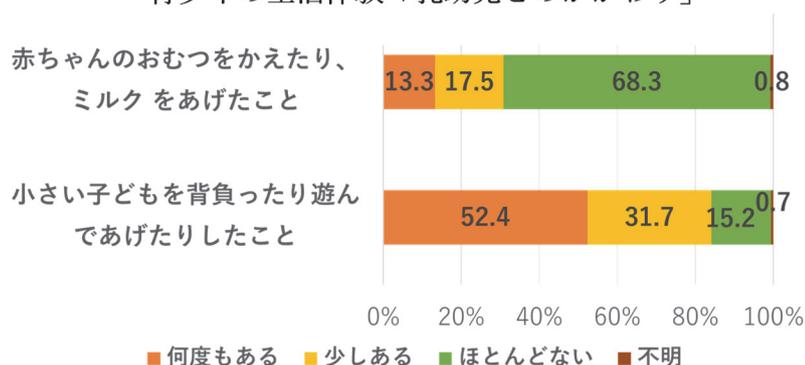
学びの主体である実習生を指導する際に求められることは、実習生理解です。対象者理解なしに良い指導はできません。時に実習生の理解が難しいと感じることもありますが、実習生がそれまで過ごしてきた背景や生活経験等に目を向け、世代の違いを超えて理解していこうとする姿勢が大切です。養成校と実習施設とが実習生の姿を共有しながら、理解を深め、協働して一人の保育者を育てていきましょう。

## コラム 近年の若者の経験に目を向ける

「青少年の体験活動等に関する実態調査」（国立青少年教育振興機構 令和元年度）によると、小さい子どもを背負ったり遊んであげたりしたことは、何度もあると答えた若者は約 5 割、少しあると答えた若者は約 3 割で、2 割弱がほとんどないと答えています。また、赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたりする経験は約 7 割がほとんど経験していないと答えています。保育者を目指す若者の中に、赤ちゃんや小さな子どもとのふれあいの経験をあまりしないまま実習を行うことになるケースも珍しくない状況といえるでしょう。

人は相手が自分の予想と異なる姿を見せた時、理解が難しいと感じやすいものですが、そのような姿の背景に目を向けてみることで理解できることがあるのではないのでしょうか。近年の若者を理解するために、若者がこれまでにどのような経験をしてきたかの、その背景に目を向けてみることも大切です。

青少年の生活体験「乳幼児とのかかわり」



引用：国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査」（令和元年度）

## I. 実習前

### 1. 実習生の実習段階・内容を確認する

実習生を受け入れることになったら、養成校からの依頼内容「実習段階・内容」を確認しましょう。

#### □ポイント 1 回目の実習か、2 回目の実習かを確認する

保育所等実習には、実習生にとって初めての实習である「保育実習Ⅰ」と、2 回目の実習である「保育実習Ⅱ」があります。「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅱ」は、実習内容も異なります。養成校から送付される実習計画書や実習の手引き等の書類で、実習の段階や内容を事前に確認しておきましょう。

#### たとえば・・・補足情報

◆保育士を養成するための授業科目は、「指定保育士養成施設指定基準」\*の中で定められている。「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅱ」の内容についてもここに示されている。

◆各養成校は、「指定保育士養成施設指定基準」を基本としながら、独自の工夫あるカリキュラムを編成している。「保育実習Ⅰ」の実施前に、保育現場の見学や体験等を実施している養成校もあるので、書類や情報交換の場等で確認しておくが良い。

\*厚生労働省雇用均等児童家庭局通知（改正子発第 0427 第 3 号平成 30 年 4 月 27 日）

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」

### 2. 養成校で実習生が事前に学んでいることを把握する

実習生は、実習が始まるまでに、保育や実習に関することを養成校で学んでいます。どのようなことを学んでいるかを把握しておきましょう。8

#### □ポイント「保育実習指導」の授業内容を理解する

実習生は、「保育実習指導」という科目の中で実習の事前学習をしてから実習に臨みます。「保育実習指導」では、①実習の意義や目的、②実習の段階と内容、③保育所等への理解、④実習に必要な記録、⑤実習の心構え、等を主に学んでいます。その他、様々な科目の中で保育所等や子どもに関する学びをしています。

#### たとえば・・・養成校との連携

●近年、養成校では授業を公開する取り組みが行われるようになってきている。このような機会に、授業見学をすることで理解を深めることもできる。

●保育所等の理解を深めることを目的に、保育士のゲストスピーカーによる講話を計画している養成校もある。養成校と保育所等の連携により、事前学習の充実が期待できる。

### 3. 職員間で実習の受け入れ・指導について確認する

実習生は園全体で受け入れ、指導する体制をつくるのが大切です。実習生が受け入れられているという感覚をもつことが、実習生の主体的な学びにつながります。職員間で実習生の受け入れや指導の基本を確認するようにしましょう。

#### □ポイント 実習生の情報と園の実習指導の基本を全職員で確認する

実習生の受け入れについて全職員が周知できるように知らせておきましょう。また直接指導に当たる職員には、実習の段階や内容等の実習依頼の情報を共有しておく必要があります。園内で一貫した指導ができるように、実習指導の基本を確認し合うことも大切です。

#### 事例 一貫しない実習指導を見直す

##### “先生によって指導されることが違う…”

ある日、A 主任保育士は D 実習生から次のような相談を受けました。

「実習日誌を細かく書いたら、B 先生からもっと要点をしぼって簡潔に書くようにと指導をされました。次の日、簡潔に記入した日誌を提出したら同じクラスの C 先生にはもっと詳細に書くようにと指導を受けました。どうしたらいいでしょうか」

A 主任保育士は、すぐに B 保育士、C 保育士に確認を取りました。それぞれの指導の意図は理解できるものの、互いどのような指導をしているかについては確認し合っていないようでした。

##### “これまでの実習指導を園内で振り返ってみよう”

D 実習生からの相談を機会に、これまでの実習指導を職員と振り返ってみることにしました。すると、職員間でそれぞれがどのような指導をしているか、ほとんど意識していなかったということがわかりました。若い職員からは、「私も、先生によって指導されることが違って困ったことがある」、「少しずつ記録が良くなっていると褒めてもらっていたら、次の日別のクラスで全然書けてないねといわれた。たしかにそうだけ悲しかった…」等々、実習生の時の経験が語られました。また、「実習生の指導は丁寧にしてあげたい。でも時間が取られて他の業務ができなくなる」等の悩みを話してくれる職員もいました。職員のような思いが語られる中で、「実習生の状況を共有し合っていこう」「実習生を指導する先生の業務はみんなで助け合おう」等の意見も出てきました。

##### <実習指導の改善>

- ・指導を担当する保育者間で、実習生の学びや指導の状況について休憩時間や午睡時間の一部等を活用して情報を共有する。また、必要に応じて主任保育士が情報共有の橋渡しをする。
- ・実習生の指導が連続性あるものになるように、実習生なりの変化や成長に着目して実習生の情報を共有する。
- ・指導を担当する保育者が抱えている業務で、代わることが可能な業務は声を掛け合って分担する。

#### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★園内で実習指導マニュアルを作成すると、職員間で共有を図りやすくなる
- ★保護者にもお便りや掲示等を活用して実習生を紹介することで、園全体で実習生を迎え入れる雰囲気をつくる。

#### 4. 実習オリエンテーションを実施する

実習生と実習施設とが互いに理解する機会として事前の実習オリエンテーションはとても大切です。実習生が安心して、主体的に学ぶ実習にするためにも、実習オリエンテーションの充実を図りましょう。

##### □ポイント1 園の説明をする

実習生が事前に園の理解を深めて実習に臨めるよう、園の保育理念・目標、特徴ある保育内容、職員構成、クラス編成等について説明しましょう。園で大切にしていることが具体的に理解できるよう伝える工夫も必要です。そのうえで、実習に必要な留意事項や持ち物などは明確に、確実に伝えましょう。園ではあたりまえのことも、実習生にとっては初めてのことやわからないことも多いので、1つ1つ丁寧に説明することが大切です。

##### □ポイント2 実習生と共に実習計画を作成する

実習生は事前に実習目標を考えてオリエンテーションに臨んでいます。実習生が何を実習で学びたいと思っているかを聴きだしながら、可能な範囲で実習生の思いを実現できるように、クラス配属や部分・責任実習の予定を一緒に考えたり、実習を通した勤務・休憩時間を確認したりしましょう。

#### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★オリエンテーションで、実習前に保育を見学したり、体験したりする機会をつくり、実習生の不安を軽減し、実習への期待につなげる
- ★園として伝えておきたい実習の確認事項・留意事項は、資料を作成しておく

## Ⅱ. 実習中

### 1. 実習生が安心して実習できる環境をつくる

実習生の不安を軽減し、安心して実習ができる環境をつくることが大切です。

#### □ポイント1 実習生と対話する機会をつくる

実習生と対話する機会を積極的に作りましょう。実習担当者やクラス担任だけでなく、様々な保育士と、保育や子どもについて話をする事で、緊張感が和らぎ、積極的に学ぼうとする意欲につながります。安心して実習ができる土壌を作りましょう。

#### □ポイント2 実習生一人ひとりに合わせた指導をする

子どもと同様に、実習生も、思いや考えが一人ひとり異なります。一人ひとりの思いや考えを尊重し、共感しながら指導することが大切です。実習生の特性に合わせた受け入れ体制も考えてみましょう。

#### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★休憩時間を利用して、実習生と対話することを心がける
- ★若手の職員と対話する機会を設ける

### 2. 子どもと心通わす体験を大切にす

子どもと心が通い合う体験やその喜びを感じることは、保育者として原点となります。実習生が子どもと存分に関わる時間をたくさん作りましょう。

#### □ポイント1 子どもと自由に関われる雰囲気をつくる

緊張している実習生も多いものです。子どもとたくさん遊ぶことの大切さを言葉や雰囲気を実習生に伝えていきましょう。保育者が子どもと楽しく遊んでいる姿を見せることもよいでしょう。

#### □ポイント2 子どもと関わるきっかけをつくる

子どもとの関わり経験が少ない実習生もいます。はじめはどのように関わってよいかわからない場合もあるので、状況を見ながら子どもと関わるきっかけを作りましょう。

#### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★クラスの子もたちに実習生を紹介して、子どもたちに実習生と遊んでみたくなるよう働きかける
- ★子どもの遊びの中に実習生を誘う

### 3. 記録（実習日誌）を書く意味を伝える

実習をより充実したものにするうえで、記録は非常に大切です。一方で実習生が最も負担を感じるものでもあります。いま一度、もし、「これぐらいの量を書くのは当たり前」、「自分たちも書いてきた」などの考えがある場合は見直し、記録を書くことの意味を考えてみるのが大切です。

#### □ポイント1 記録することで「保育を可視化」する

記録をすることで、「子ども理解が深まる」、「振り返りによる気づきを得る」、「自らの課題に気づく」といった学びが得られることを、実習生が理解できるように指導しましょう。

#### □ポイント2 保育の過程を理解する

実習においても、保育実践における PDCA サイクルに位置づけて、記録を考えることが大切です。

#### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★記録に対して自信を持てるように、多様な意見を認める、安心感を高めるといった姿勢で対応する
- ★実習日誌の負担を考え、実習時間中に記録をまとめる時間を設ける
- ★実習生が自身の気づきを意識化できるような言葉かけを行ってみる。例えば、「このように考えたのはどうしてですか？」「昨日とは子どもの様子がどのように違っていたと感じましたか？」などの言葉かけ

### 4. ICT を活用する

近年、保育現場においても ICT の活用が進んでいます。実習日誌の記入においてもルールを明確にしながら、その活用を進めていくことが求められています。

#### たとえば・・・実習施設との連携

- 養成校と実習施設の間で ICT 活用のルールを決めておく
- 養成校と実習施設の間で了解が得られれば、実習生に記入用フォーマットを配信する
- 実習施設で導入されている ICT ツールがあれば、その仕組みを学ぶ機会を提供する

### 5. 学んでほしい内容によって記録（実習日誌）の書式を選ぶ

学生に学んでほしい内容によって、記録の書式を変更することも大切です。実習の時期や園の状況、実習生の実習目標などに応じた柔軟な選択ができるようにしましょう。

#### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★保育実習Ⅰ（保育所等）では、初めての实習体験である場合も多いため、「一日の時系列記録」を丁寧に書けるように指導する
- ★保育実習Ⅱの実習後半や保育実習Ⅰと保育実習Ⅱが同一の保育施設で実習を行う場合は、「エピソード記録」「ドキュメンテーション型記録」などの割合を増やす
- ★実習生の負担を減らすため、ICT を積極的に活用する

さまざまな記録様式の特徴と実習生が学ぶことができる内容・実習指導者の配慮点

記録様式	○実習生が学ぶことができる内容 ☆実習指導者の配慮
<p>一日の時系列の記録</p> <p>特徴：一日の流れに沿いながら「環境構成」「子どもの活動」「保育者の援助」「実習生の援助や気づき」などを記入</p>	<p>○子どもの一日の流れと保育士等の業務の全体像を理解する</p> <p>☆すべてを詳細に記録することは読み返した時に分かりづらくなる場合や実習生の負担も大きいため、実習生の一日の目標や課題を考慮し、着目する点や場面をある程度絞って記述できるように指導することが大切となる</p>
<p>エピソード記録</p> <p>特徴：その日に印象に残った保育場面を抽出してエピソードとして取り上げ、感じた思いや考察を記入</p>	<p>○実習生が自ら選んだ保育場面を記録し、考察を加えていくことで、子どもの行動の理由、保育者の援助の意図、その後の展開といった一連の流れを文脈的に捉える</p> <p>☆実習生が自身の気づきを意識化できるように、記録の中でよかったことを伝えたり、対話を通して実習生の記録の意図を聴き取り、子どもや保育の理解が進むような具体的な内容を伝えることが大切となる</p>
<p>保育環境を図示したマップ型記録</p> <p>特徴：保育環境図に子どもの遊びの様子を書き込み、そこで展開する子どもの経験を記入</p>	<p>○子どもの遊び方、子ども同士の関係性、子どもと空間の関係等を俯瞰的に把握する</p> <p>☆保育状況の多面的な理解が求められるため、実習生がある程度実習経験を重ねているかどうか考慮することや、園の子どもの状況も、ある程度、遊びや友達との関係性が継続する状態である場合に導入することが大切となる</p>
<p>ドキュメンテーション型記録</p> <p>特徴：子どもの学びを写真などで可視化し、子どもや保育士・保護者等と対話するための資料</p>	<p>○単に記録をするだけでなく、記録を行う過程において、子どもや保育士等と対話し、学びのプロセスを理解する</p> <p>☆保育中に写真を撮る場合が多く、写真を撮ることが目的にならないように指導することや、データ管理の方法を伝えることが大切となる</p>

## 6. 全体的な計画に基づく計画や実践を理解する

実習生が全体的な計画や指導計画にふれる機会はなかなかありません。実習において全体的な計画の位置づけや内容を実習生に説明することで、保育実践が、全体的な計画や指導計画に基づき実践、実践後の評価が行われていることの理解につながるでしょう。

### □ポイント1 保育のねらいを伝える

一日、週などの保育のねらいを事前に実習生に伝えるとよいでしょう。保育を観察する視点が明確になるとともに、実習生なりにねらいを意識しながら主体的に保育に参画することが期待できます。

## 事例 “さりげない一言の指導”で主体的に学ぶ実習生

### “春を探しに散歩に行きましょう！”

3歳児クラスでの実習2日目のことです。前日に一日の保育の流れは理解したものの、まだわからないことも多くA実習生は周囲を注意深く観察しながら、子どもたちや担任保育士の動きに合わせて動くのに精一杯の様子です。朝の集会を終えて、「今日はあたたかいからお散歩にいこう」とB保育士が子どもたちに声をかけると子どもたちはテラスに移動します。A実習生も子どもたちと一緒にテラスに向かいました。すると、一緒にテラスに出てきたB保育士がA実習生に「今日は春を見つけるのがねらいです。春を探しに散歩に行きましょう」と声をかけました。

子どもたちは園庭の門の前に並んで散歩に出かけるのを楽しみに待っています。B保育士は、「C先生は真ん中を見てくださいので、Aさんは後ろをお願いします」とA実習生に声をかけました。すると、A実習生は安心したように列の後ろの子どもたちの横について、一緒に散歩に出かけました。散歩の途中では、B保育士が「あの木の枝、ちょっとみて」と子どもたちに言葉をかけます。「あっ、なんだかぼつぼつしてる」と木の枝の芽吹きを見つける子どもたち。A実習生も、「あ、葉っぱだよ」、「この実はなに？」とつぶやく子どもの声に耳を傾け、春探しを一緒に楽しみました。A実習生の表情も和らいでいます。

ポケットや手のひらにたくさんの春のお土産をもって園に戻りました。散歩の途中で見つけた木の実をDちゃんは握りしめています。A実習生も同じ実を持っています。A実習生は、Dちゃんを誘って保育室にある図鑑を開きました。「何の実かな？」と、Dちゃんも、A実習生も興味津々、楽しそうです。

### <B保育士から学ぶ実習指導のヒント>

実習生はわからないことが多く、とくに実習の初期段階では今どこにいればよいか、何をすれば良いかすらわからず不安になるものです。B保育士のようにさりげなく、これから何をするのか、どうしてほしいのかを実習生に一言伝えるだけで、実習生は「わからない」状況から、「動いてみよう」という思いに変わるようです。自分から動いてほしいので何も言わないのではなく、実習生が主体的に保育に参画し学ぶために必要な情報をさりげなく伝えることが大切なのではないでしょうか。

#### ヒント①活動のねらいを伝える

「〇〇します」「〇〇がねらいです」と一言添えると、実習生なりにそのねらいを意識して子どもに関わるができるでしょう。計画に基づく実践の学びも深まります。

#### ヒント②一緒に保育をしていこうという気持ちをもつ

実習生は指導していく存在ですが、一緒に保育を創っていく存在でもあります。できないことも多いですが、できることもたくさんあります。実習生の力を発揮できるようにしていくことが大切です。

## □ポイント2 全体的な計画・指導計画を閲覧する機会をつくる

園の全体的な計画や指導計画を閲覧できるよう声をかけましょう。実際の保育と結び付けながら説明すると理解が深まります。

### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★クラス等での、計画に基づく振り返りや指導計画作成の会議に、実習生も参加する機会をつくる
- ★食育計画や保健計画等も閲覧する機会をつくる

## 7. 実習生が学びたい内容によって部分・責任実習の方法を選ぶ

部分・責任実習というと、「一斉活動」の場面でなければいけないと思いがちです。実習生が学びたい内容によって、部分・責任実習の方法（保育方法）を選択できるように柔軟に考えましょう。

### □ポイント 部分・責任実習の方法を実習生に提示する

保育者は、子どもに経験してほしい「ねらい」によって、クラス一斉で行なうのか、興味をもった子どもが参加するのかなど、保育方法を考えます。実習生にとっても、部分・責任実習をどのような方法で行なうのかによって、学ぶことができる内容が異なります。部分・責任実習の方法を柔軟に選べるようにしましょう。

### たとえば・・・実習方法の例

- ★ 思い思いに遊ぶ時間に、学生が一つのコーナーを担当する
- ★ 0歳児クラスの一人の子どもを学生が担当する
- ★ 子どもに提案する制作を数日にわたり継続して作る活動を担当する

## 8. 保護者支援を学ぶ環境をつくる

保育実習Ⅱの授業内容では、「入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する学び」が位置づけられています。このことは、実習生が直接、保護者に関わるといった経験が難しい場合も考えられますが、実習施設のさまざまな支援のあり方を学ぶ機会を設けることで学びの場を提供することが求められます。

### たとえば・・・実習指導の工夫

- ★ 登園や降園の際、保育士等の保護者への関わりを学べるようにする
- ★ 園だよりや連絡帳といった園が作成する保護者向けの記録を見る機会を持つ。
- ★ 施設長や主任保育士など保護者支援に携わることが多いスタッフにインタビューする時間を設ける
- ★ 子育て広場など併設している場合、実習プログラムに組み込む

## 9. 保育を振り返る行為を共有する

日々の保育を振り返ることを通して、実習生は、保育士の子どもの理解に触れたり、援助の意図を理解したりする機会になります。日々の保育の振り返りを、実習生と共有する時間を積極的につくりましょう。多くの実習生は緊張しているので、すぐに質問ができなかったり、何を話してよいかわからなかったりすることもよくあります。リラックスした雰囲気の中で、具体的なエピソードを引き出しながらオープンクエスチョンで語り掛けることが大切です。また、実習生の気になることはその都度、率直に伝え、どうすれば良いかを一緒に考えていけるとよいでしょう。

□**ポイント1 短い時間でも日々の振り返りを大切にす**

忙しい中で、実習生と振り返りを共有する時間を確保することに負担感を感じることもあるでしょう。振り返りを共有する時間は、5分や10分の短い時間でも、日々行うことで、実習生の子ども理解が深まり、保育士の意図を理解した援助につながります。

□**ポイント2 振り返りの共有が日誌の記録にも活かされる**

振り返りを共有することで、実習生は、保育士の子ども理解や援助の意図を、実習日誌に記述しやすくなります。保育士の子ども理解や援助の意図が書かれた実習日誌は、実習生が保育の過程を踏まえて指導案を書くことにもつながります。

**たとえば・・・実習指導の工夫**

- ★実習生と振り返りを共有する時間や担当者を事前に決めておく
- ★おやつと一緒に食べるなど、緊張せずに話ができる環境をつくる

**10. 養成校と一緒に実習生を育てる**

養成校と連携しながら、「保育士養成」について共通の理解をもつことで、実習生が安心して実習ができたり、より良い学びにつながったりします。養成校の教員による訪問指導は、実習生への理解を深めたり、養成校と共通理解を図ったりする重要な機会と考えましょう。

□**ポイント1 訪問指導を養成校とつながる機会にする**

訪問指導は、養成校の教員と直接対話ができる機会でもあります。特に、日誌の書き方や書式の使い方、部分・責任実習の進め方について、実習生の学びたい内容も考慮しながら、養成校と共通理解が図れるようにしましょう。

□**ポイント2 実習生への理解を深める**

訪問指導において、実習生の普段の姿や、養成校の指導の様子を聞くことは、実習生への理解を深めることにつながります。また、実習中の実習生の姿や成長したところを養成校の教員に話をすることで、養成校に戻った後の、学生指導にも活かされます。

**たとえば・・・養成校との連携**

- 受け入れに不安を感じた実習生に対しては、早めに養成校に連絡をとる
- 訪問指導の際、養成校の教員が実習生と落ち着いて対話ができる環境をつくる

### Ⅲ. 実習後

#### 1. 「何が良くて何が課題なのか」が分かるように評価を書く

実習施設の評価票は、実習生が次の実習や就職後の課題を知るための大切な資料です。実習生が、「何が良くて何が課題なのか」が明確に分かるように評価を書くことが大切です。

##### □ポイント1 伝えたいことを言葉にして明記する

数字で表現されている評価の理由を、言葉で具体的に書くようにしましょう。養成校の教員が、実習生に評価を伝える際、「何が良くて何が課題なのか」を明確に伝えることができます。

##### □ポイント2 実習施設の評価だけでは実習の評価は決まらない

評価を付ける際に不安になることも少なくないかもしれません。実習の評価は、養成校の実習指導における評価などを総合的に判断して付けられます。

##### □ポイント3 実習施設の評価の開示の仕方は養成校によって異なる

実習生への評価の開示の仕方は、養成校によって異なります。どのように開示されてもよいように、評価を書くようにしましょう。

#### たとえば・・・実習指導の工夫・養成校との連携

- ★実習生の課題や気になることは、日々の振り返り等において、実習生に伝える
- 実習生の課題や気になることは、訪問指導の際に、養成校の教員と共有する

#### 2. 養成校の事後指導にも関心を持つ

養成校では、実習後に仲間と実習体験を共有したり、実習施設からの評価のフィードバックを受けたりして実習を振り返るなどして、学びを整理するとともに、深めています。こうした養成校の事後指導にも関心を寄せ、その内容にふれることは今後の実習指導の参考になります。

##### □ポイント 養成校の事後指導を見学したり、参加したりする

機会があれば、実習後に養成校で実習生がどのような実習の振り返りを行っているのか、話を聴いたり、見学させてもらったりするのも良いでしょう。

#### たとえば・・・養成校との連携

- 養成校で開催される実習連絡会・懇談会等に参加する
- 養成校で作成している実習報告書等を読ませてもらう
- 機会があれば積極的に養成校の実習の振り返りに参画する

## コラム 負担感の多い実習指導から、保育の質を高める実習指導へ

日常の保育や様々な業務に加えて行う実習指導に、負担を感じる先生方も多いのではないのでしょうか。実際、実習生の指導には、時間を費やし、頭も心もつかれます。負担感をゼロにすることはできませんが、実習指導を園の保育の質を高める機会にすることはできるのではないのでしょうか。

ある園では、実習生を受け入れる時には、毎回、園の保育理念や保育所保育指針、全国保育士会倫理綱領を全職員で確認し合う時をもつようになっているそうです。日常のあたりまえの保育の中にある大切なことを、立ち止まり考えることは、保育者自身が自らの保育を見直す良い機会になるのではないかと思います。また、ある園では、実習指導を行ったクラス担任と主任保育者とで実習指導の振り返りを実施しているそうです。“自身の保育を実習生に説明することができたか”、“実習生の振り返りから新たな気づきを得られたか”等、実習指導の振り返りを通して、保育を可視化する力を高めたり、多様な視点で保育を捉え見つめ直したりする機会に繋がっています。

実習指導を担うということは、保育者としての専門性が要求されることです。実習指導を保育者としてのキャリアに位置づけていくことが大切ではないのでしょうか。負担感の多い実習指導から、保育の質を高める実習指導へと転換していきましょう。

---

一般社団法人全国保育士養成協議会

令和 5 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業（こども家庭庁）「指定保育士養成施設及び実習先保育所等の実習指導担当者に対する効果的な研修の在り方に関する調査研究」

発行 令和 6 年 3 月 31 日

編集担当 小櫃智子 (東京家政大学)  
小原敏郎 (共立女子大学)  
齊藤多江子 (日本体育大学)